

2018年7月19日

中国改革开放 40 周年・深圳の歩みと今 (3) ～ GDP から見る深圳市の変遷～

2018 年は中国が改革开放政策に転換してから 40 周年に当たります。経済特区という位置付けの下、改革の「実験場」として、対外開放の「窓口」として改革开放政策を主導してきた深圳市は、急速な発展を遂げ、かつての小さな漁村から「世界の工場」へ、そして昨今は「イノベーション都市」に変貌しつつあります。本レポートでは、中国の改革开放政策の始まり、改革开放政策以降の深圳の歩みを概観したうえで、その歩みの中から「イノベーション都市・深圳」が形成された背景を考察します。3 回目の本稿では、深圳市の変遷を GDP から見てみます。

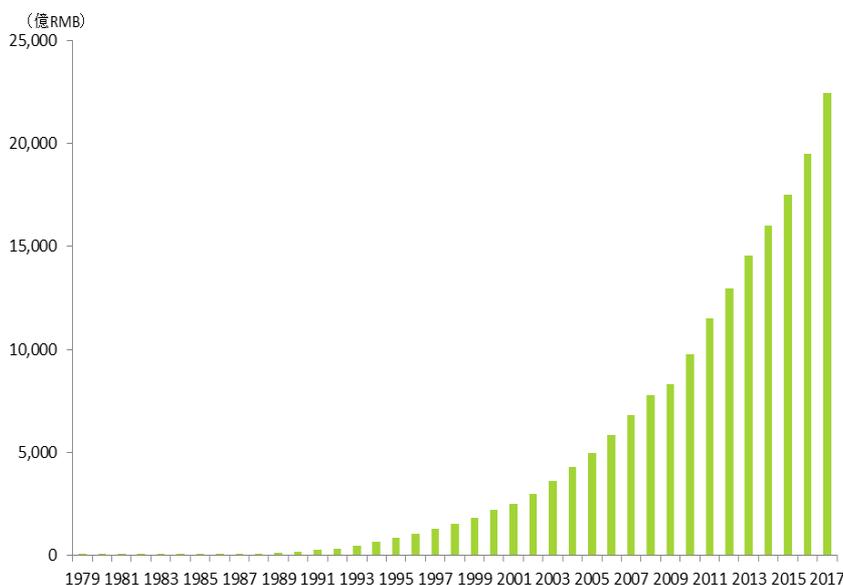
GDP の推移

深圳市統計年鑑によると、深圳市の GDP は 1979 年の 1 億 9,500 万元から 1990 年に 171 億 6,600 万元、2000 年に 2,187 億元、2010 年に 9,773 億元と右肩上がりに拡大しています(図表 1)。2017 年は 2 兆 2,000 億元に達し、中国の都市別では、上海市、北京市に次いで 3 番目の規模。伸び率は、4 大都市のうち最大となっています(図表 2)。

GDP の産業別構成比をみると、1979 年当時は第一次産業が 37%、第二次産業が 20.5%、第三次産業が 42.5%でしたが、労働集約型産業を中心に加工貿易拠点として発展してきた 1980 年代から 90 年代にかけては第二次産業の比率が拡大、第一次産業の比率が低下していきました。「世界の工場」として発展してきた深圳市で

すが、2000 年代後半以降は経済の規模拡大から質向上への転換が迫られ、2010 年 10 月、深圳市政府は『経済成長方式転換加速に関する決定』を発表。スピード重視の「深圳速度」から質重視の「深圳品質」へのシフトが必要と提起しました。こうした中、2010 年以降は第三次産業の比率の上昇が鮮明になり、同比率は 2010 年の 53.7%から 2016 年には 60.1%に拡大しました(図表 3)。

図表 1: 深圳市の GDP 推移



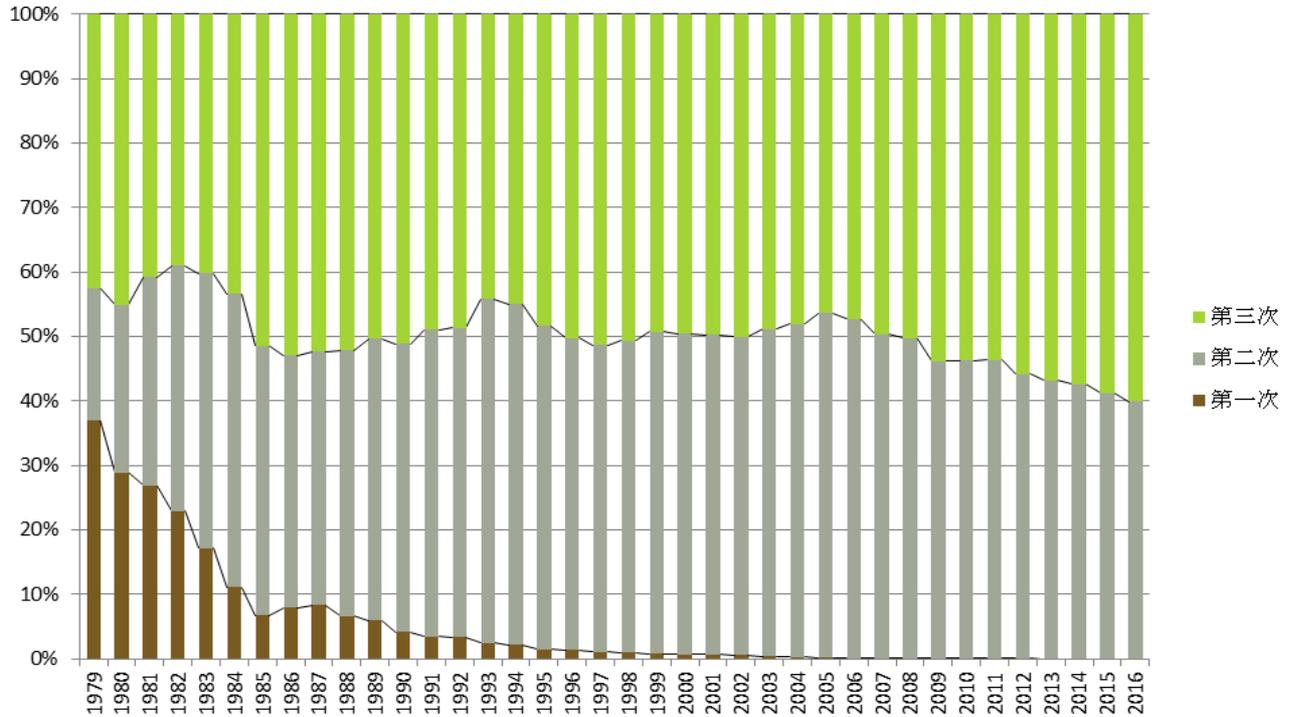
(出所) 『深圳統計年鑑』を基に作成

図表 2: 4 大都市の 2017 年の GDP 及び人口

都市	GDP		人口
	億 RMB	伸び率	
上海	30,133	6.9%	2,418 万
北京	28,000	6.7%	2,171 万
深圳	22,286	8.8%	1,252 万
広州	21,500	7.3%	1,404 万

(出所) 各地方政府の統計に基づき作成

図表 3: 深圳市の GDP 産業別構成比の推移

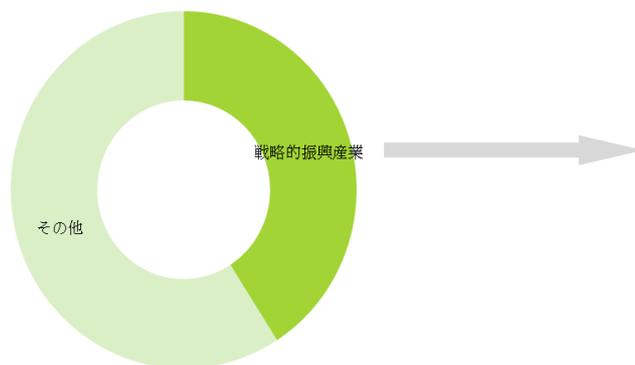


(出所) 『深圳統計年鑑』を基に作成

戦略的新興産業の GDP に対する寄与

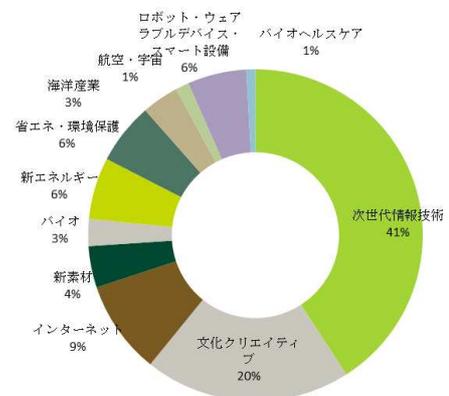
深圳市は戦略的新興産業の GDP に対する寄与が大きいのも特徴です。2017 年の深圳市の GDP 全体に占める戦略的新興産業の比率は 40.9% に達しました。これに対し、中国全体の GDP に占める戦略的新興産業の比率は 2015 年が 8%、2020 年の目標 (15%) に比べても大幅に上回っており、深圳市が他都市に先駆けて産業高度化が進んでいる状況が窺えます。

図表 4-1: 深圳市の戦略的新興産業の GDP に占める比率



(出所) 『深圳統計年鑑』を基に作成

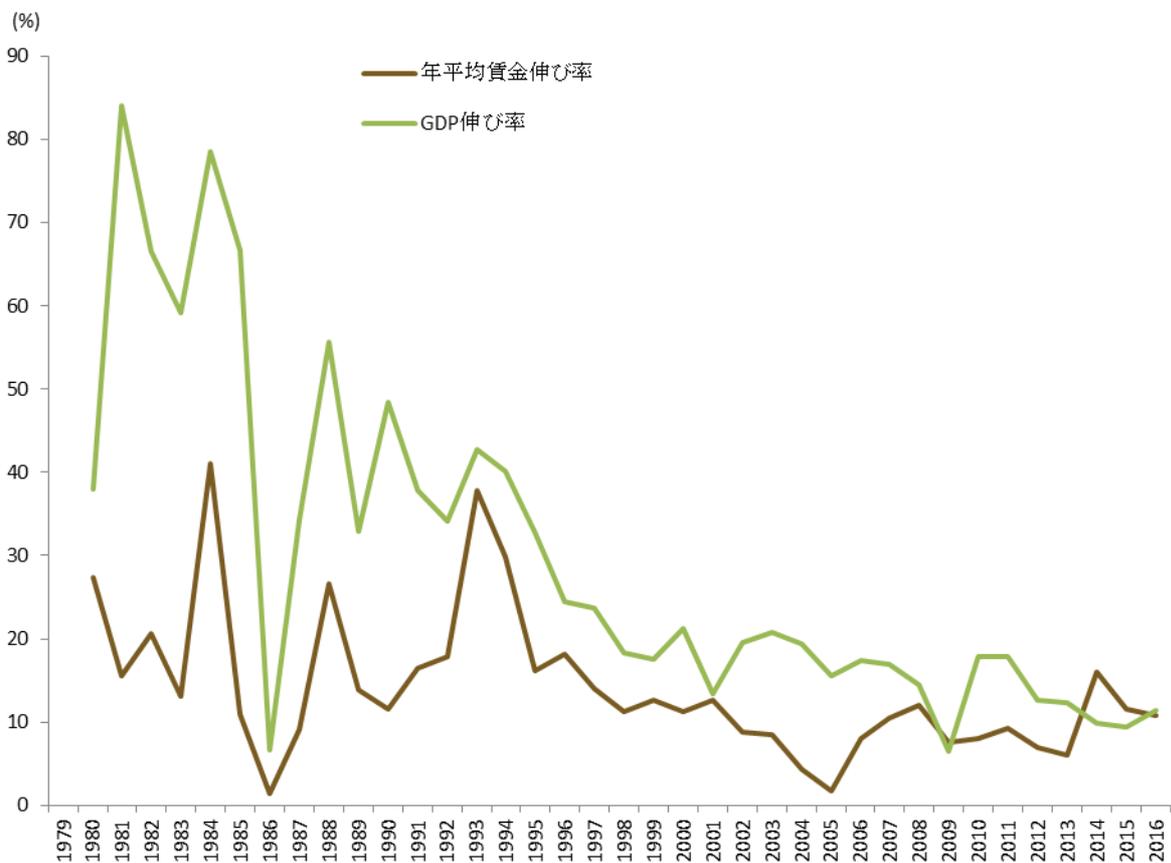
図表 4-2: 戦略的新興産業の内訳



賃金の伸び率から見た深圳の変貌

改革開放政策への転換以降、来料加工を中心に海外企業の製造拠点として発展してきた深圳市。「世界の工場」を支えてきたのは低廉な人件費でした。実際、2000年代前半まではGDP伸び率に比べて賃金の伸び率は抑えられてきました。しかし、昨今はテンセントや華為に代表されるようなIT関連企業などでは高い賃金水準になっており、近年は賃金の伸びが加速。賃金の伸び率推移からも、深圳が「世界の工場」から「イノベーション都市」に変貌している様子が窺えます。

図表 5: 深圳市の GDP 伸び率と年間平均賃金伸び率の推移



(注) 伸び率は『深圳統計年鑑』に掲載されている数値を基に算出した名目ベースで実質ベースではありません。

(出所) 『深圳統計年鑑』を基に作成

(執筆: 株式会社三井住友銀行 コーポレート・アドバイザー本部 香港グループ)

本誌内容に関するご照会は、お取引店までご照会ください。